

4月は新年度を迎えて新入社員や人事異動などで会社内での連携がうまくいかないことも多いのではないのでしょうか。そのようなホールの状況を狙って、毎年この時期に多く発生するのが「送り付け商法」(ネガティブオポジション)なので注意が必要です。

## 偽の求人広告の振込み請求するなど「送り付け商法」

「送り付け商法」とは、「押し付け販売」とも呼ばれる詐欺の手の

一つで、注文していない商品を勝手に送り付けて、その人が断らなければ買ったものとみなして、代金を一方的に請求する悪徳商法です。

昨年、国民生活センターから高齢者を狙って勝手にカニなどの魚介類を送り付ける悪徳商法について注意喚起が出されて全国ニュースにもなりましたが、パチンコ店でも頻繁にこの送り付け商法の被害が発生しております。

過去の事例としては、ホールが実際に他の求人雑誌に掲載している求人広告の写しと求人広告の案内状と振込用紙(7〜10万円程度)

が送り付けられたことがあります。あるホールでは、新人の経理担当者本物の求人広告の代金だと間違えて振り込んでしまいました。

後日、そのホールに実際に他の求人雑誌に掲載している求人広告のコピーが掲載された小冊子が送られてきました。代金の支払いがあつて何もないと詐欺事件になるので、寄せ集めた求人広告のコピーが掲載されたゴミのような小冊子を作成して、それをそのホールに送り付けてきたのです。このようにして詐欺グループは、事件になるのを回避するように狡猾に立

ち回っているのです。

## 代金引換郵便でポスター送りつける大規模詐欺を未然に

また、遊技機のポスターや部品などを代金引換郵便で全国のパチンコ店へ一方的に送り付けてお金を騙し取ろうとする詐欺事件も過去には多数発生しております。

大手パチンコメーカーの機種に関連商品に見せ掛け、人気キャラクターのポスターを代金引換郵便で全国のパチンコ店に送り付けて代金を騙し取ろうとした詐欺事件では、事件性を察知した警察が、犯人グループが振り込まれた代金を引き出せないように当該口座の凍結を当該郵便局に要請すると同時に、全国の郵便局に対して犯人の口座に代金を振り込ませない口座凍結を要請して、犯人グループへ騙しとった代金が一円たりとも渡らないようにしたことがあります。

約1万店舗へ送り付けられた詐欺ポスターですが、ポスターの作成料や送料などの費用は600万円くらいとのことでしたが、犯人グループは約600万円ものお金

# ゴトに勝つ

高石隆一

# 20

ジャグラーなどに新クレ満  
誤差メダル抑え犯行常連化

を使って1円も手にすることが出来ずに、拳句の果てに、全員逮捕されてしまいました。

このように犯人グループが逮捕されて被害金が返金されるケースは極めて稀なケースですので、まずは被害に遭わないようにすることが大切です。

## 勝手に解釈して払ってしまえば代金はまず戻らない

送り付け商法への対処方法として、当たり前のことになりますが、必ず支払先と支払う内容を確認してから支払い手続きをするということ徹底することです。代金引換郵便の場合は、身に覚えが無ければ「受け取り拒否」で、お金も払わず商品も受け取らない。差出人はパチンコ業界を連想させるような会社名が使われていることが多いので、不安な場合は一旦支払いと受け取りを留保しておき、確認後、正当に発注したものであれば再配達してもらおうという態度で対処すればいいのです。

被害が出てしまったケースで一番多いのが、確認もせずに「きつ



牙王 確変時の大当りまでの流れ



牙王 セグ表示の確変濃厚パターン箇所



牙王 エラー表示画面

犯行を行って合計約8万発もの出玉を出していたことが判明しました。ホールスタッフのインカム連絡後すぐに遊技を止めた状況から、車両で待機していた男がインカムを傍受していたものと思われる。

と〇〇さんが頼んだ物だろう」と気を利かせて代金を立て替えて支払ってしまう優しさが裏目に出るパターンです。一度支払ってしまった代金を取り返すことは非常に困難で、詐欺事件として立件するのも難しいのがこの「送り付け商法」です。各店舗で被害が発生しないように、全ホールスタッフへ注意喚起を徹底するようにお願いいたします。

## 札幌の数店舗でインカム傍受のドツキゴトが発生

先月の3月6、7、8日と札幌市内のパチンコ店数店舗で、サンセイR&D「CR魔戒決戦牙王RR」においてドツキゴトと思われる事案が発生いたしました。

最初に発覚した経緯は、カウン

ターの外線電話にお客様からの通報があったことからでした。電話の内容は「CR牙王でゴトされている。スピーカーにテープのようなものを貼って遊技台をドツキゴトしている」というものでした。

その内容をそのままインカム連絡した直後、ゴト師は遊技を止めて交換のためナンバランプを押してホールスタッフ呼びました。ホール側はすぐにジェットカウンターを止めて、その間に遊技台の点検をおこなったのですが、特に異常は見えなかったのですが、特に異常は見えなかったため警察への通報や出玉交換の拒否を断念して、しかたなく交換に応じたのでした。

閉店後、遊技台のデータと防犯カメラの録画映像をチェックしたところ、ゴトグループは4人組で店舗にレンタカーで来店していて、車両に1人待機させて残り3人で

## 消音のテープ貼り「魔界」時にドツキ

犯行の詳細が映った映像がないのでデータなどの状況からの推測になりますが、魔開チャンスを引きくまで自力でお金を使って遊技して、魔開チャンスに突入後からドツキゴトを開始している模様です。ゴト師は魔開チャンス突入後の右打ち中に、玉がスタート（ベロ）を通過した際に表示される盤面左下のセグで魔開チャンスの継続・非継続を瞬時に判別し、継続の場合はそのまま遊技してV入賞を狙って普通に打ち続け、セグが非継続の場合は遊技台を即座にドツキすることによりV入賞を回避させて大当たりを継続させていたものと思われる。

実際に被害に遭ったホールでは、

ゴト師が台を叩いている様子やスピーカーにフィルムを貼っている様子が防犯カメラの映像に残されていました。「CR魔戒決戦牙王RR」にはドツキゴト対策として振動センサーが搭載されておりますが、この振動センサー発報時のエラー音を周りに聴こえにくくするために、ゴト師は犯行前にスピーカーにフィルムを貼っていたのです。しかも、犯行後にフィルムを剥がして帰って、証拠を隠滅していることからかなり計画的にゴトを実行していることが窺えます。



## 水掛論避けるため 「禁止」の掲示をし 証拠映像をしつかり

わざわざエラー音を消音するためにスピーカーにフィルムを貼り付けている状況からも、ドツク際には振動センサーが反応するほどの衝撃を与えているものと思われるので、振動センサーの検知をナンバランプでエラー報知するように、遊技機の外部端子盤の橙色（オレンジ）の出力端子をナンバランプに接続することをお勧め

めいたします。

当ゴトの対応方法としては、羽根物などを狙ったドツキゴトの対応方法と同様になりますが、まずはハウスルールにドツキ行為を禁止する旨が表示されているかを再確認してください。物的証拠等が少なく、やった・やっていないの水掛け論になって対応が難しいドツキゴトではありますが、スピーカーにフィルム等を貼ってドツキゴトに及んでいる場合には、あらかじめ悪いことをするという意志（いわゆる犯意）があるとして入店しているので、警察対応時の優位性、出玉の無効や退店処分の妥当性が増すものと思われま

す。ゴト師側よりも優位に立って対応を行うためにも、事前にゴト師がスピーカーにフィルムを貼り付けている様子や遊技台をドツクしている映像などの証拠を明確にしておくようお願いいたします。

「CR魔戒決戦牙王RR」は1種+2種混合タイプで、シリーズ初代の「牙狼」とゲーム性が同様であることから、今回のドツキゴトの手法以外にも初代「牙狼」で発生した糸付き玉や磁石ゴト等も今後発生する可能性がありますので

併せて警戒をしてください。

## 1回に3枚だけ クレジットをあげ 気付かれない工夫

今年になり全国的に被害報告が散見されているのが、「アイムジャグラーSP」や「クラシックジャグラー」などのクレ満ゴトです。過去のクレ満ゴトは、その名前のままにクレジットを満タンにして精算ボタンを押してクレジットを払い出しさせるということを繰り返して荒稼ぎするという手法が主流でしたが、今年になってクレ満の使い方が変化してきました。

全国で発生しているクレ満ゴト被害による誤差メダルの枚数が今までより少なくなっているという事は、誤差メダルが少なくなっていることは、ゴト被害が少なくなっていることなので良いことだ：とは一概に言えない状況なので注意が必要です。それはクレ満の使い方がクレジットを満タンにするのではなく、一回のゲーム分の3枚だけクレジットを上げてクレ満ゴトを行うというもので、大当たりするまでクレ満ゴトを続けるが大

当たり後はゴトを行わないという手法が主流になってきているのです。このような使い方をすることにより、店舗側にゴト被害だと発覚するような大きな誤差メダル数が発生することが少なくなり、ゴト被害に気が付いていない店舗に何度もゴトをするために通うことができるのです。いわゆるゴトの常連化が進むこととなります。

犯行時の姿も、メダル投入口に挿入されたクレ満のスイッチ部にメダルを投入するフリをしてメダルを当てるとクレジットが上がるシステムなので、一見すると普通に遊技しているだけにしか見えないので、ゴトが発覚して警察に通報されるリスクも少なくなるのです。

## 不審者をチエツク メダル投入のフリ発見 即対応したが逃げる

今までのようなハイリスタ・ハイリタインのクレ満ゴトから、全国的に一斉にローリスタ・ローリタインの手法へ変化したことは、とても不気味な流れに感じられ、なにか大きな組織が裏で動いて指南しているような気がします。

北海道であった事例では、2週連続で水曜日に千枚・六百枚という誤差メダルが発生していたので、今週も同じ水曜日に誤差（ゴトかも？）が発生するかもしれないというところでいろいろと警戒していたところ、「アイムジャグラーSP」で見慣れないお客様を発見したホールスタッフが役職者へ連絡を入れて、役職者が防犯カメラでそのお客様の遊技状況をチェックしました。そのお客様の遊技する姿に違和感を覚えたので、注意深く遊技している状況を見てみるとメダルを投入するフリをしていることに気が付き、クレ満ゴトが行われているのを確認したため警察に通報しました。

しかし、警察が到着前にゴト師がメダルの交換を求めてきたため、計数機の故障を理由に交換を待たせて警察が到着するまでの時間稼ぎをしたところ、ゴト師は身の危険を察知したのかメダルを残したまま逃げられてしまいました。

少数でも誤差メダルや誤差玉が出た場合の原因究明を徹底することが重要で、安易に設備の故障によるものだと決めつけることの無いようにしてください。もしかし

たら、ゴト被害かもしれないという危機意識をお忘れないようにお願いいたします。

## 全国的に「持ち込み」 大人数で数万発超え 地域連絡なしは残念

こちらの手口の場合は少数の誤差ではなく、あまりにも大量の誤差が発生したので、設備の故障だと疑ってしまうゴトが、2月下旬頃から全国的に相次いで発生しております。そのゴト手口とは、玉の持ち込みゴトです。

持ち込まれる玉も数万発の被害から十数万発もの被害が発生した店舗も出ており、持ち込みを行っているゴト師も複数で組織的に犯行をおこなっている模様です。

玉の持ち込みは、比較的大人数のゴト師と大量の玉と共に移動する必要があるので、犯行に使用するために大量に仕入れた玉を保管する場所から、一定の範囲内で集中的に犯行が行われることが多い。被害に遭った店舗が近隣のホールへ注意喚起することが有効な手段なのですが、なかなか実施されていないのは残念なことです。

閉店後に誤差として異常を察知することはできませんが、それでは被害に遭ってしまった後となってしまいます。いかに犯行時に発見できるかが重要となりますので、同じ人物が出入口を頻繁に出入りする挙動や見慣れない人物が集まっている状況等に注意してください。



クレ満クン クレ満クンを挿入している様子



4号機時代に使用されたクレ満クン(参考写真)

○部分にメダルを押し当てるとクレジットが上がる!!

## 玉の刻印と温度を 確認する習慣を 客の滞在時間七

交換時には玉の刻印チェックや玉の温度（持ち込まれた玉は外から持ち込んでるので冷たい場合が多く、特に冬場は極端に冷たくなっていきます）のチェックを実施して警戒をしてください。持ち込みゴトの場合、出玉の交換は一度に数万発を交換すると大当たり回数と出玉にズレが出てバレル可能性があるがあるので、数回に分けて交換をするパターンがとても多いので、出玉の数量で判断することは難しく、そのお客様がいつ来店してどの台で遊技していたか、というよ

うにそのお客様のことを考えるようにすることがベストだと思います。来店から短時間のお客様だったりして違和感を覚えたり、自分ではわからなかったりした場合は、他のスタッフにインカムで確認することや役職者へ連絡して防犯カメラの映像を確認するという方法もあります。ジェットカウンターでの接客は、顧客満足度を左右する重要なクロージング接客のタイミングであり、ゴト被害を未然に防ぐ最後の砦でもあるので、とても大切な接客の瞬間になります。

■高石隆一 ■たかいしりゅういち  
警備会社の指導員、セキユリティー会社を経て2003年、有限会社ジャパン・セキユリティー・サービスを設立し代表取締役。札幌方面遊技事業協同組合、札幌遊技業協同組合、札幌遊技業支配人会の顧問を務めるかたわら、パチンコ産業のセミナー講師を数多く務める。北海道警察本部の捜査にも協力している。「一期一会」が座右の銘。